134

Ｌｉｆｅ　Ｖｅｓｔで除細動を記録できたホルター心電図が治療方針に有用であった症例

◎橋本 安貴子[1)]、瀧口 良重[1)]、小川 智寿美[1)]、中塚 賢一[1)]、森井 眞治[1)]、大石 博晃[1)]
公立大学法人 和歌山県立医科大学附属病院[1)]

【はじめに】 「Life Vest」は心臓突然死のリスクを抱えた患者が日常生活で着用する自動除細動器である。着用患者の心電図を常時監視、解析し、不整脈の中でも特に危険な心室頻拍（VT）や心室細動（VF）を検出した場合、アラームが鳴り、自動で電気ショックを与える。今回我々は、ホルター心電図装着中に心室細動（VF）に陥り、Life Vest による自動除細動作動を観察することができたので報告する。

【入院時現症】 50 歳代男性。他院で高血圧の為通院。健診で心電図異常を指摘され、当院紹介。低左心機能の重症大動脈弁閉鎖不全症で、手術適応と診断された。

【安静時心電図検査】 心拍数 74bpm、洞調律。左室高電位所見（＋）。

【心エコー検査】 左室駆出率（EF）は 48%。大動脈弁逆流量は 81ml、逆流率（RF）は 43%。大動脈弁の有効弁口面積（ERO）は 0.53cm^2。

【治療経過及びホルター心電図結果】 生体弁置換（Bentall）術後 10 日目にモニター上、VT から VF が出現し、DC200J 施行し心拍再開した。翌日にも再度 VF の出現あり。術後急性期であり、植込み型除細動器（ICD）移植術の適応として時期が早いと思われたが、再発性の VF であり、術後 17 日目から Life Vest 着用し術後のリハビリ経過を見る方針とした。術後 24 日目のホルター心電図検査中、再度 VF が出現し、Life Vest 作動にて洞調律へ復帰するエピソードが記録された。

【考察】 ホルター心電図記録中に、Life Vest の適切作動で洞調律へ復帰する瞬間を記録できた。術後急性期の致死性不整脈では、長期的には EF の改善の可能性もあり、ICD 移植術の適応を迷う症例がある。Life Vest はそのタイミングを検討するために有効な治療選択肢の 1 つであると言える。

【まとめ】 Life Vest 装着時に適切な作動経過を記録でき、ホルター心電図が治療方針決定に有用であった症例を経験できた。

連絡先：073-447-2300 (内線 2407)